

新しい時代の医療への対応： 疾病軸のアプローチ

テルモ株式会社
代表取締役社長CEO
佐藤 慎次郎

2019年11月7日

持続的成長に向けたポイント

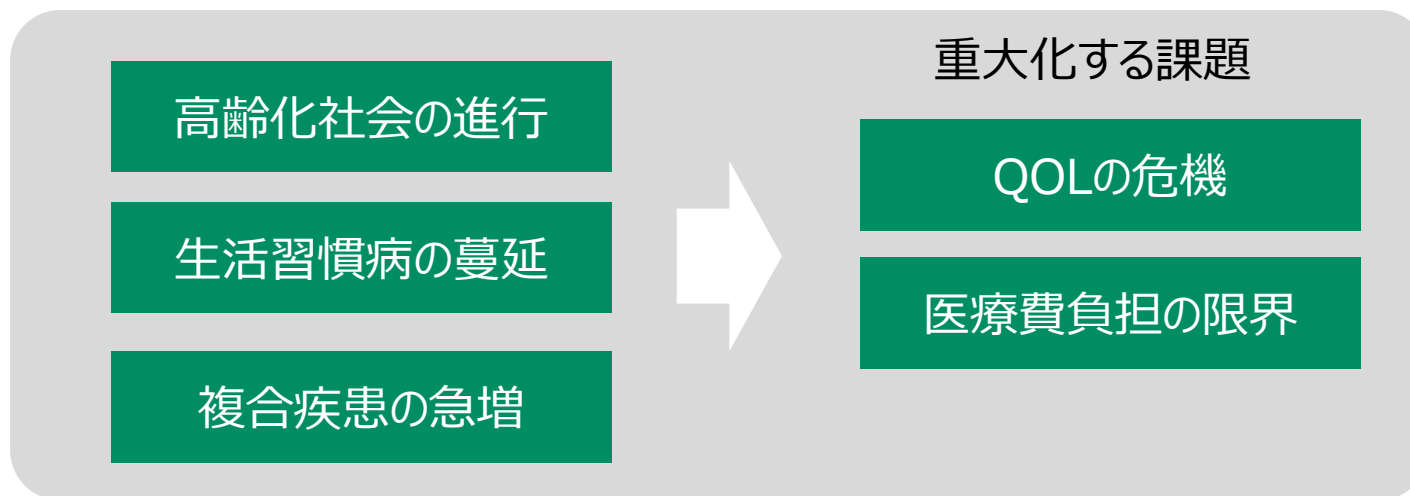
グローバル・オペレーションの強化

戦略的開発の推進

グループ総合力の発揮

参照：2017年11月9日 決算発表スライド「持続的成長に向けた取り組み」より

医療のパラダイムシフト



これらの課題を解決するために、医療システムには変化が求められる。
そして、デジタル化等の技術革新が、その変化を可能にするとともに加速する。

これまで

これから

医療の発生場所

病院やクリニック



+ 在宅や地域ケア施設

医療の中心目標

急性期



+ 健康管理から長期の疾病管理

支払い対価の基準

インプット



+ アウトカム

テルモの考える「疾病軸のアプローチ」とは？

1. 診断・治療のピンポイントでなく、予防から予後までの時間軸で課題をとらえる



2. 製品軸に縛られず、幅広いソリューションから最適な価値を提供する



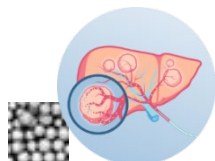
3. 高齢化により、社会的にも重大なインパクトをもつ疾病をターゲットとする



がん 事業をまたがる多様なソリューションを提供

- 治療から周術期・ケアまで、トータルQOL向上に寄与する製品ラインアップ
- 現状事業規模：400億円以上

治療



負担の少ない手術にしたい
ラジオエンボリ、薬剤/生分解/放射線ビーズ



最適な治療を選びたい
Spectra Optia



安全に抗がん剤を投与したい
ケモセーフ

治療補助



術後の合併症を減らしたい
アドスプレー



術後の痛みを減らしたい
アセリオ、フェンタニル



治療を通院で受けてたい
CVポート

ケア



がんの痛みを減らしたい
メサペイン



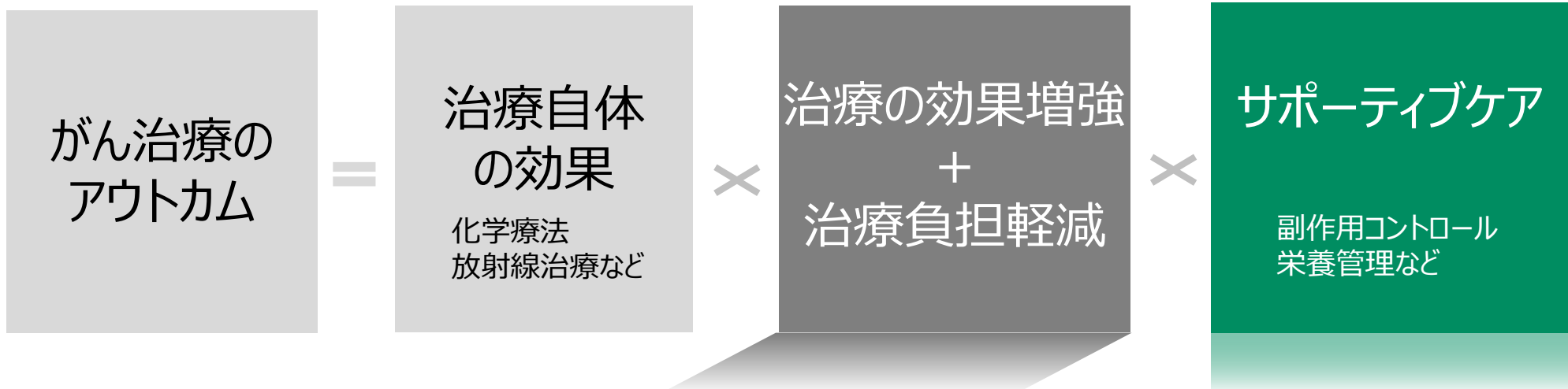
栄養をしっかり補給したい
アップリード、アップリードmini



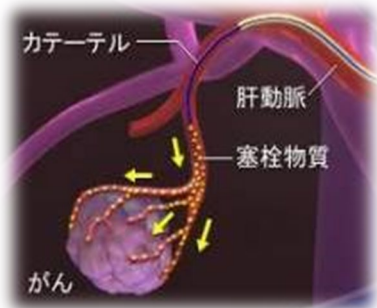
むくみを軽減したい
ジョブスト

治療のアウトカムを最大化するテルモらしいソリューション

- 低侵襲・局所投与により治療負担減少 ⇒ インターベンションオンコロジー
- 重要性が高まる「サポータティブケア」が充実 ⇒ 抗がん剤投与、疼痛緩和、癒着防止 など



カテーテルによる局所投与 (インターベンションオンコロジー)



カンパニーをまたがる製品群



サポーターティブケアでは既にメインプレーヤー

多様な製品群により幅広いサポーターティブケアのニーズを満たし、更にプレゼンスを拡大

国内サポーターティブケア市場

テルモ事業規模

約100億円

心臓血管
10億円

ホスピタル
80億円

血液システム
10億円

デバイス他
約600億円
+
副作用を
緩和する薬剤
約1,000億円

CVポート



疼痛緩和など



ケモセーフ



圧迫療法関連



アップリードなど



アドスプレー



Optiaなど

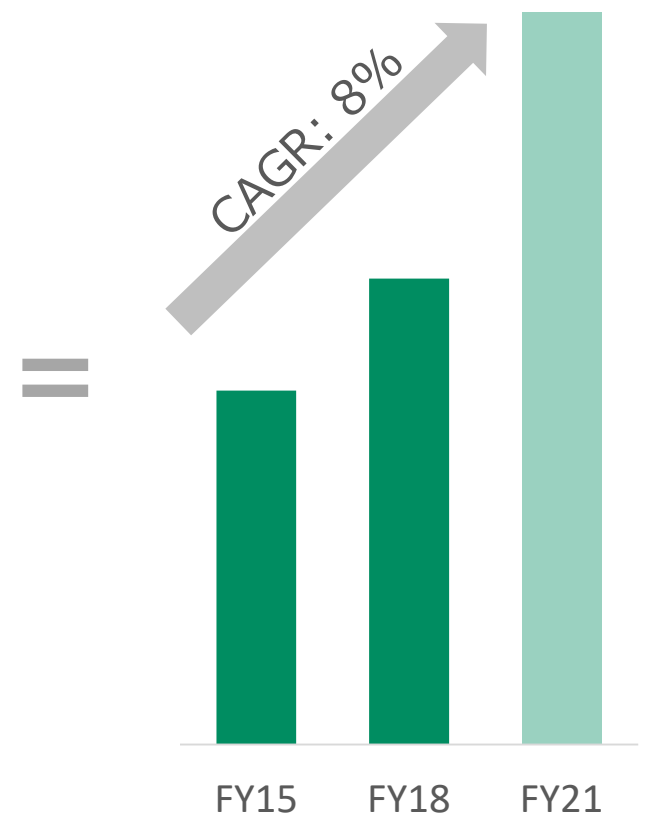
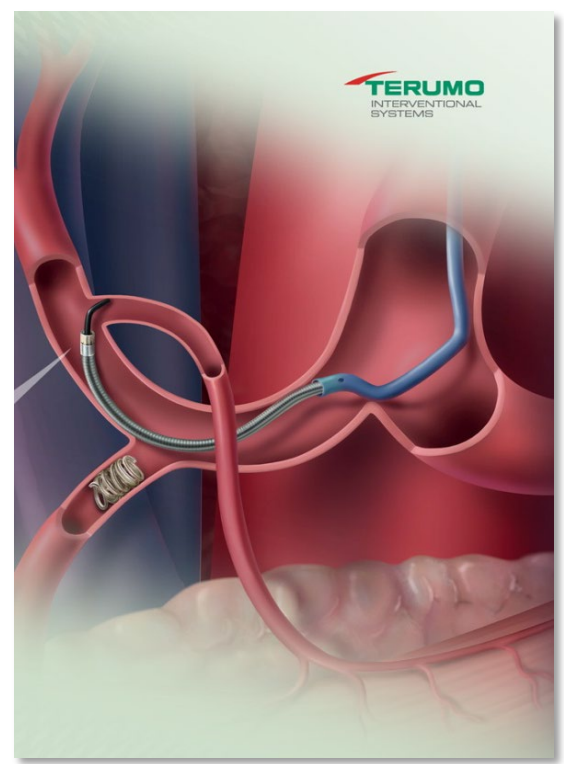
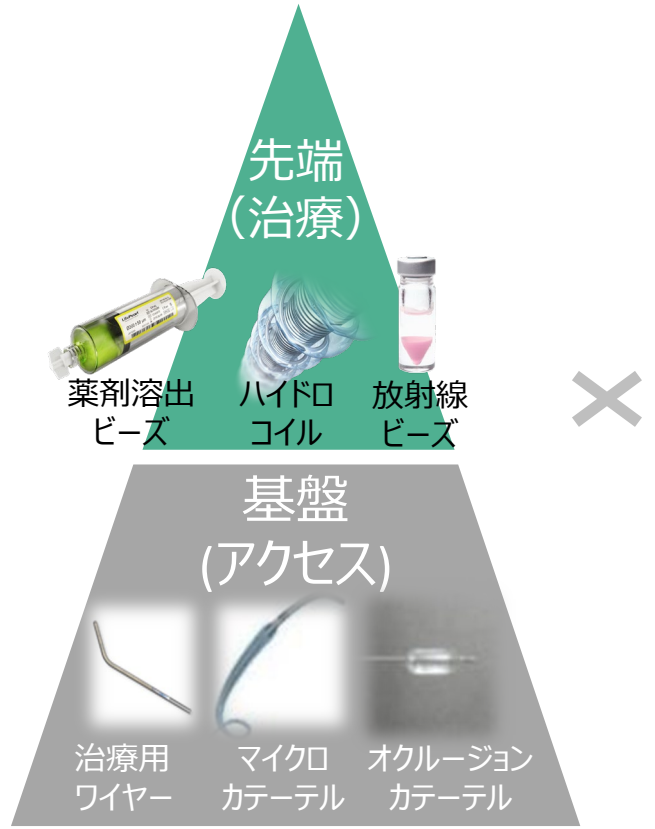


がん I・オンコロジー：強みであるデリバリー技術を生かす

低侵襲かつ局所的な化学療法・放射線治療のニーズが高まってきている

局所投与による効果最大化

TRIによる治療負担減



先端製品を加えトータルソリューション化

- 現行の**200億円事業**に先端技術を加え、糖尿病領域全体にコミット
- 診断製品シェアNo.1をテコに、治療や予後・管理へ展開

過去
診断などの基盤領域



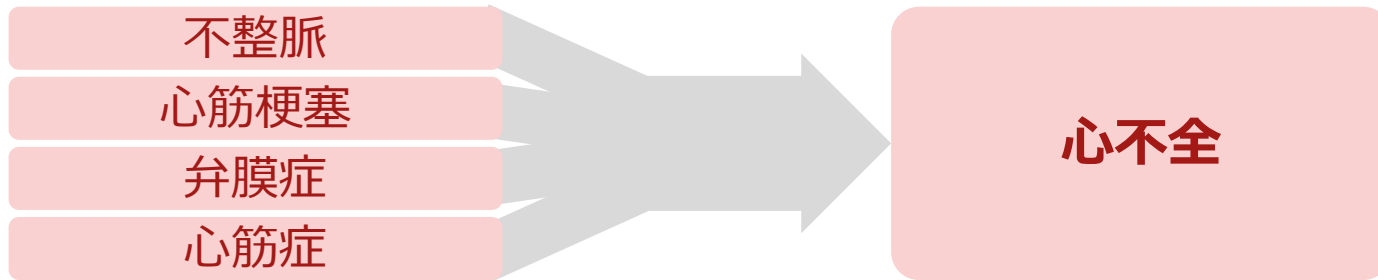
現在
先端領域に参入



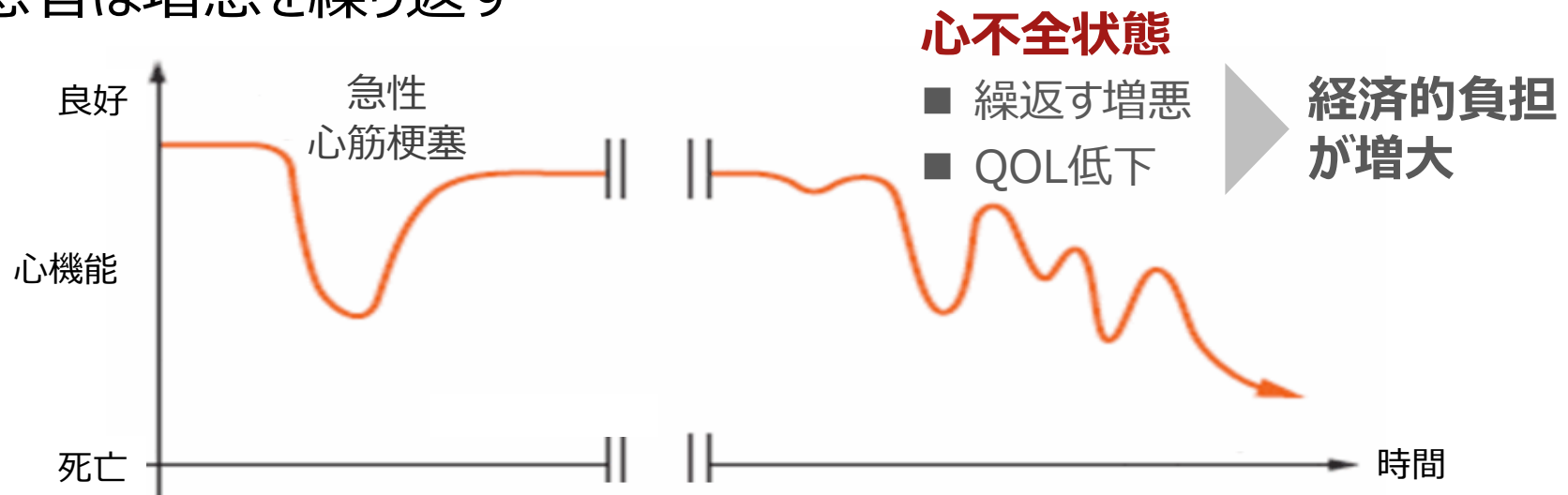
未来
更なる進化



■ 心不全は心臓疾患の終末像



■ 患者は増悪を繰り返す



患者増、医療費増大、病床不足等で医療体制が疲弊する「**心不全パンデミック**」の恐れ

PCI・CABG・細胞シートなどの事業群にモニタリングと連携促進を加えることで心疾患にまつわるPatient Journeyをケアする

器質的心疾患

心不全増悪期

内科的アプローチ



薬剤溶出
ステント



血管内画像
診断システム



ガイドワイヤー



止血デバイス

外科的アプローチ

人工肺

人工心肺装置

体外循環装置用
遠心ポンプ



早期診断



ReThink
MEDICAL

増悪を検知するモニタリング

早期治療

骨格筋芽細胞ベース



ハートシート

iPS細胞ベース

クオリプス社への出資を通じiPS細胞由来心筋シートの事業化に参画



病院連携を促進するプラットフォーム

- 健康寿命の延伸には「健康に自分の足で歩ける」期間を長くすることが鍵
- 血流の早期診断・介入に加えて、分断するネットワークにゲートウェイ機能等を提供
- 売上**500億円**を超える多様な製品群が深く関与

予備軍

家庭での血糖レベルの
チェックを容易にする



原疾患管理

糖尿病を適切に管理する
ことで合併症を予防する



合併症治療

下肢の血流を改善する
ことで重症化を防ぐ



重症化予防・機能回復

血流の補助や回復を促し
難治性潰瘍や切断を防ぐ



腎症悪化を防ぐ



骨折からの回復を早め
歩行不全を防ぐ



新たな機能を加えベストソリューションを創造

テルモに存する基礎的能力



幅広い技術



顧客アクセス



教育・トレーニング



企業文化



領域専門性



疾病軸

知見・戦略

今後追加すべき能力



データ



データ分析



ソフトウェア



ネットワーク化

最後に

- 新時代の医療を見据えて、疾病フォーカスを強めることにより、「製品軸の戦略」に縛られず、「疾病軸の戦略」「消費者・患者軸の戦略」への転換を促す
- その結果として、「患者さんのQOL向上」と「医療経済性の改善」の双方を満たすテルモらしいソリューションで、高齢化社会における貢献を拡大する
- 近い将来、個人にカスタマイズしたソリューションを提供できるよう、内部開発、外部提携など様々な手段を通じて、デジタル化にかかわる能力の充実化を図る

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。